

平成29年度江戸川大学国立公園研究所の 活動について

I 内外の国立公園、自然公園に関する資料の収集と整理

- 寄贈された書籍、資料などの整理と閲覧、貸出しに向けての整理を継続しました。
- 元環境庁自然保護担当審議官宇野佐様と、氏がご所蔵の貴重な図書の寄贈受入れに関して、打ち合わせを行いました(2月：親泊・伊藤)。

II 国立公園研究所特別講座の実施(駒木学習センターとの共同企画)

1 新・国立公園シリーズ「紅葉景観—その楽しみ方」～紅葉を多面的に見る～

講師：宮地信良 客員研究員 開催場所：学内及び日光

内容：国立公園の秋の景観を代表する紅葉。その色づきのメカニズムや種類、美しい紅葉を見るための歩き方、紅葉と文学など、紅葉のすべてを多面的に学ぶ企画。定員20名に達した。

第1回：10月23日 [講義：学内] 紅葉を多面的に見る

紅葉する理由、いろいろな紅葉、これもカエデ？ 紅葉の美しい見方、紅葉と文学等、紅葉を多面的に学ぶ。

第2回：10月30日 [現地ツアー：日光] 日光の紅葉を訪ねる

日光国立公園の日光に出かけ、日本有数の紅葉の美しさを味わう。また、絶滅危惧種Ⅱ類の珍しいカエデ「クロビイタヤ」が栗山の土呂部で最近見つかった。今回はこの紅葉も見に行く。

2 初級者向け野鳥の楽しみ方講座～冬はバードウォッチングに最適な季節 あなたも楽しんでみませんか～

講師：中島慶二 研究所長 開催場所：学内及び利根運河

内容：身近な野生動物として親しまれている野鳥。野鳥の観察は楽しくて飽きることがない。

また、野鳥観察は野鳥を含む生態系を学ぶことにもつながる。講義とフィールドの2部構成で、初級者向けに楽しく観察するコツを伝授する企画。定員20名に達した。

第1回：12月9日 [講義：学内] 野鳥という生きものの生活や特徴を学び、双眼鏡の扱い方、環境の中でいかに早く見つけるか、そのコツを伝授。

第2回：12月16日 [フィールド：利根運河] 利根運河周辺で冬鳥を中心に野鳥を実際に観察。観察しやすいカモ類から始め、セキレイ類、ホオジロ類、ツグミ類、キジ、カワセミ、ジョウビタキなども。

III フォーラム・講演・大学駒木祭参加等による啓発活動

1 江戸川大学駒木祭

日時：平成29年11月3日(木・祝) 11:00 ～ 12:10

場所：江戸川大学駒木キャンパス 映像ホール(1階)

パネリスト：環境省奄美群島国立公園上席自然保護官 千葉康人氏

自然公園財団日光支部

石井 綾氏(本学科OB女性)

自然公園財団箱根支部

加藤和紀氏(本学科OB男性)

内容：いきものが主人公となる新しい自然遺産の誕生に向けた奄美群島国立公園の取り組みなどを環境省レンジャーに紹介していただきました。

一方、世界文化遺産にすでに登録されている日光と富士山で国立公園管理に携わっている本学OBの職員に現在の国立公園の現状について伺いました。

80名程度の参加がありました。内容については本号に掲載しています。

2 今だから語るその時代の国立公園その3～国立公園フォーラム2018

講師：

第1回：(2月10日)渡辺綱男氏(一般財団法人自然環境研究センター上級研究員)

第2回：(2月17日)星野一昭氏(鹿児島大学特任教授)

第3回：(2月24日)塚本瑞天氏(一般財団法人休暇村協会常務理事)

内容：わが国の国立公園行政の責任者である歴代の自然環境局長や審議官を招いて、国立公園や生物多様性政策の変遷とその背景事情についてじっくり語っていただく企画。今回はその3回目を数え、現在のところ最も新しい局長OBまで網羅することになりました。

それぞれが担当された時代は、変化する課題に対して、どのような考えで、どういった政策を打ち出していったのか、生物多様性条約締約国会議COP10名古屋開催から、最近にかけて自然環境局長を担当した方々に、それぞれの思いを伺いました。

毎回20～25名程度の参加者がありました。内容については本号に掲載しています。

IV 国立公園に関する研究等の実施

いずれも本号に掲載しています。

- 大正後期から昭和初期にかけて行われた国立公園候補地選定に関する論考 油井正昭
- 海外の公園標識のセンスとユーモアについて 親泊素子
- 日光国立公園日光地区における自然ガイド事情 宮地信良
- 国立公園の案内標識に準拠した情報提供のしくみづくりに関する基礎的研究 土屋薫
- 平成江戸川版現代語訳「国立公園法解説」(上) 中島慶二
- 「木原文庫」の展示にむけて 吉永明弘

V その他

1 国立公園研究所年報第2号を発行し、関係者へ配布しました。(11月)

2 国立公園研究所調査研究スカラーシップについて

平成29年度には、学生からの貸与希望はありませんでしたが、過年度に引き続き、大塚弘子様より大口の寄付をいただきました。ここに改めて御礼を申し上げます。

3 休暇村協会からの寄付と学生支援について

平成29年度末、一般財団法人休暇村協会から、国立公園に関する研究を推進している江戸川大学の教養の理念に賛同するとして、本学に対して100万円のご寄付を賜りました。

これを原資として、江戸川大学国立公園研究所は、研究所の設置目的である「内外の国立公園に関する研究の推進と国立公園関係者の交流の活発化を通じて国立公園の保護及び利用の質の向上と活性化に寄与する」こと及び研究所の事業として明記された「学生の研究活動への支援」を推進するため、下記の通り学生への支援を行うこととしました。

- 江戸川大学社会学部現代社会学科の在学学生(2年生以上)を対象とし、学生の勉学活動に必要な旅費の一部を定額で支援する。
- 「勉学活動」には、国立公園等に関する現代社会学科国内・国外専門研修参加、学会等出席、地方へのインターンシップ、ゼミ旅行及びこの事業の趣旨に沿うものとして、国立公園研究所長が認めた学生の活動のみが含まれる。
- 支援額は定額とし、1回の旅費で1万円を超える国内旅費に対して5千円、4万円を超える海外旅費に対して2万円とする。支援は在学中に一回のみとし、支援を受けた学生はその後受給資格を失う。

すでに平成30年度から支援を開始しており、先日の現代社会学科海外専門研修(台湾：太魯閣国家公園・陽明山国家公園)に学生8名が活用させていただきました。休暇村協会のご支援に対し、改めて御礼申し上げます。

4 自然公園財団との業務契約について

平成30年4月より、一般財団法人自然公園財団と、江戸川大学国立公園研究所の間で業務契約を結ぶことになりました。業務内容は、自然公園財団出版物の監修、国立公園雑誌への定期投稿、その他となっております。このことにより、雑誌国立公園の平成30年9月号以降、江戸川大学国立公園研究所のコーナーが設けられています。